

# あいち病害虫情報 最新情報

平成26年9月16日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## ミナミアオカメムシ

ダイズにおけるミナミアオカメムシの発生量は、前年より少ない状況です。しかし、ほ場間で発生量にばらつきがありますので、ほ場を見回って発生状況の把握に努め、発生ほ場では開花30日後を目安に防除しましょう。

## 落葉果樹の病害虫

モモせん孔細菌病が発生しているほ場では、台風などの風雨で感染の拡大が予測されるので、早めに防除しましょう。ナシ黒星病、ブドウべと病が発生しているほ場では、次作の伝染源を減らすため、秋期防除を徹底しましょう。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップ及び予察灯における誘殺数は、平坦部ではおおむね平年並です。しかし、新城市の予察灯では引き続きやや多い状況で、山際で飛来の多いほ場があります。スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過後などに突発的に飛来が増加することがありますので、園内をよく観察し、飛来を確認したら防除しましょう。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、豊田市のモモでは多い状況です。今後、ナシ園への成虫の飛来が心配されますので、発生が多いナシほ場では、収穫前日数に注意し、防除しましょう。

## ダイズ、野菜類、花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は少ない状況です。ダイズでは、白変葉を確認したら、速やかに防除しましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、豊橋市、安城市、西尾市で引き続き多い状況です。好天が続くと発生量の増加が予測されますので、成虫の飛来や幼虫の早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

9月上旬の巡回調査では、キャベツほ場でのハイマダラノメイガの発生量は平年並です。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなりますので早期防除に努めましょう。

## アブラナ科野菜の細菌性病害

黒腐病、黒斑細菌病、軟腐病などの細菌性病害は例年、降水量が多いと発生が増加します。9月11日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると、降水量は平年並の見込みですが、台風などの風雨はこれらの細菌性病害の発生を助長します。悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

## イチゴ炭疽病、萎黄病

両病害ともに、気温が高いと発生が助長されます。また、炭疽病は台風などの風雨で発生が増加します。発病苗や発病が疑われる苗は定植しないようにするとともに、本ぼで発生を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

## トマト、ミニトマトの黄化葉巻病

トマト、ミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミを防除するとともに、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 (内線471) FAX 0561-63-7820